



婦人と子ども

第六卷第八號

家庭と蔬菜栽培

横井農學博士が嘗つて云つたことがある

農家と農家ならざるを問はず、都人と山舎なるとを問はず、各自庭園の一隅に蔬菜を栽培するは、實益上は云ふ迄もなく、家庭教育上極めて有要なるものなり。殊に兒童をして親しむ之に従事せしめしめば、或は科學的智識を收得する機会を與へ、或は勤勉の風を養成し、或は身體の發育を佳良ならしむる等、其利益計り知るべからざるものあらん。蔬菜は其生育期間短きを以て、原因結果を尋めるに早く、従つて兒童の如き性急なるものに栽培せしむるには、最も適應したる仕事と云はざるべからず。又其結果は花類杯と異なり、之を食し之を味ひ得らるべきが故に、興味また自から深からざるを得ず云々と

又記者の知人に某會社員があるが、其家の夫人は頗る蔬菜、栽培に興味を持つて居て朝は冬でも五時夏は四時位に起き出で、下女が米を炊き汁を煮る間に熱心に二三十歩許りの畑の世話をして居る。蒔の盛り時など出掛けて行つて頗る美事なものを馳走になつた事も度々であつたが實際横井博士の云はれる通り其夫人は是によりて種々の利益を得て居つた様である。記者嘗つて其夫人に調戲ふ積りで

「夫人夫れで八百屋から買ふのに較べて何の位利益がありますか」と聞いたら此夫人は

「い、え、經濟的には大した利益はありませんまい、地面を貸して高い地代を探る方が割でせう。利益は夫れよりも無形の方面に多い様です」とて

家族子弟をして勞動の神聖なることを悟らせ閑暇徒食を戒むる活教訓を興ふるに恰好の材料にして生産の容易ならざることや樂は活動の中に求む可きものなることを知らしむるには此方法が最も我家庭に適せる様に覺ゆときめつけられて大に教へられる始末となつて急に眞面目に主婦の活動論を戦はした事があつた。爾來幾年の今日家庭園藝の聲漸く大きく本年の暑中休暇などには所々に此種の學術に関する講習會なども開ける様になつたのは頗る快心の次第であるが希くは一時の流行でなく永續させたいものである。(牧羊)